

小学校事例

活用場面	現職研修（いじめアンケートフィードバック研修）		
実施時期	7月上旬	活用時間	40分
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめに対する取組を自分事として捉え、学校のために真剣に知恵を出し合う。</li> <li>・アンケート結果についてグループや全体で議論することを通して、教職員同士が互いの考え方のよさや違いに気付く。</li> <li>・いじめに対する組織的対応の必要性について意識を高める。</li> </ul>		
特色・工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校規模（特別支援学級を含め全校 17 クラス）を踏まえ、教員だけでなく事務職員等を含む全教職員でアンケート調査及び本研修会を実施した。</li> <li>・事前にアンケートの集計結果と傾向のまとめを資料として配付し、各自の意見をもって参加するように呼びかけた。</li> </ul>		
内容・流れ	<p>以下の3点について、グループで議論した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①アンケートの結果から感じたことについて</li> <li>②「いじめ」と感じる児童・教職員が少ない項目に対し、どのような指導を行うか</li> <li>③いじめに対する対処行動を知らない児童にどのような指導・支援を行うべきか</li> </ol>		
参加者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人からはどう見ても「いじめ」、または「犯罪」と思える項目について、「感じない」と回答する児童がいることに驚いた。この認識の違いから、実際にいじめに発展するかもしれないため、日頃からアンテナを高くしておきたい。</li> <li>・小学校は、教員の意識や判断基準が児童一人一人の認識に大きく影響しやすいと感じるため、私たち教職員の規範意識や予防意識を高めていきたい。</li> <li>・「今の行動はどう思うかな」と客観的に考えたり、「嫌だと思ってるんだよ」と多様な価値観に気付かせたり、共感性を育む指導が必要だと感じた。</li> <li>・児童一人一人に対して、「やめて」と言ってその場を離れたり、周りの大人に助けを求めたりするなどの具体的な対処行動を丁寧に教えることが大切である。また、クラス全体に教えることで、被害者だけでなく、加害者やその周りの児童にも気付かせていくことができるかもしれない。</li> <li>・いじめが起こったときは、組織で動くことが本当に大切であり、教員は役割分担をして動くとういかもしれない。</li> </ul>		
委員所感	<p>アンケートの結果から、本校はいずれの項目においても男子と女子、児童と教職員の間で有意な差は見られなかったが、その認識の違いや多様な価値観に驚きを示す教職員が多数であった。個々の指導・支援はもちろんだが、集団の力を高めること、ソーシャルスキルを高めること、教職員の「いじめ」に対する意識や対応力を高めることの大切さを研修会で再確認することができた。</p>		